

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 25 日現在

機関番号：37119

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653103

研究課題名（和文） 栄養教諭の資質を効果的に高める養成カリキュラム開発

研究課題名（英文） Development of a Training Curriculum to Effectively Improve the Quality of Nutrition Instructors

## 研究代表者

川越 有見子 (YUMIKO KAWAGOSHI)

西南女学院大学 保健福祉学部 准教授

研究者番号：20425341

研究成果の概要（和文）：栄養教諭の資質を高めることは、食育を推進し、国民の健康を守るために必須のことである。本研究の分析では栄養教諭制度創設の審議経過から栄養教諭に求められる資質は個別指導能力であり、加えて先進的食育実践地域の実態調査から教育現場における担任・養護教諭等との連携調整の役割が重要で「総合的なマネジメント」能力が求められることを明らかにした。管理栄養士養成大学 134 校を対象に調査し類型化した結果、資質形成に差が見られるため、資質を効果的に高めるため、体験学習や教育実習の強化を含めた養成カリキュラムの基本原則を提案した。

研究成果の概要（英文）：Improving the quality of nutrition instructors is essential to promoting food education as well as protecting the health of citizens.

Analysis of the deliberations regarding the foundation of a system for nutrition instructors and research from a progressive community practice study revealed the following: That the ability of nutrition instructors to coach individually and collaboration and cooperation from all class teachers and other nutrition instructors play an important role in “comprehensive management”.

After categorizing the results of a study of nutrition instructors at 134 colleges with accredited dietician training programs, certain differences in the quality of the instructors were observed; Based on these results, I have suggested a training curriculum with a foundation which will strengthen both practice teaching and on-site based learning methods in order to effectively improve the quality of these instructors.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：栄養教諭養成、資質形成、カリキュラム、食育、栄養教育、

## 1. 研究開始当初の背景

栄養教諭は職務として各教科との連携、学校・家庭地域との連携、実践や体験に基づく「総合的な学習」を生かした活用型学習の育成が望まれている。そのためには、学校と地域をつなぐ食育、健康づくり教育、食料問題、食文化、経済、産業、環境問題などの分野を総合的にマネジメントする能力の養成が急務である。これまで栄養教諭養成カリキュラムの本質的な検討がなされていない中、食育、健康づくり教育等、多角的な視点から食を総合的にマネジメントできる能力の養成、必要なスキルを修得させていく必要がある。

## 2. 研究の目的

栄養教諭養成の課題を分析し、優れた栄養教諭を養成するためのカリキュラム開発の基本原則を提案することを目的としている。大学では、栄養教諭に求められる基礎的資質を形成することが基本であるので、その観点から、カリキュラムの不備を補完するために、選択科目、履修モデル、資質形成科目、栄養教育実習などについて、カリキュラム開発の基本原則を提案する。

## 3. 研究の方法

審議経過を中心に、資質形成の基本となる免許制度について考察し、栄養教諭の実務実態調査を通して、大学における養成カリキュラム分析をするという方法によって追究した。

(1) 栄養教諭創設の経緯については、文部科学省調査研究協力者会議、食に関する指導体制部会、ワーキンググループ、中央教育審議会、そして国会の審議経過から解明した。

(2) 栄養教諭の職務実態調査では、福井県、京都市、札幌市、南国市の4つの地域の実態調査を通して職務内容から求められる資質を検証した。

(3) 栄養教諭養成の資質形成については、①栄養教諭の前身である学校栄養職員に求められた資質、②栄養教諭の設置経緯から期待された資質、③職務実態からみた望ましい資質について追究した。その上で、大学における栄養教諭養成のカリキュラムを分析し、そのあり方を考察したものである。

## 4. 研究成果

### (1) 栄養教諭の資質形成について

栄養教諭創設前の学校栄養職員の歴史的誕生の経緯をふまえ、栄養職員に求められる資質を検討した。職務内容から求められる資質は3つの段階を経て変化し、学校栄養職員がはじめて採用された昭和23年度当時、教師としての資質と栄養士としての資質を併

せ持つことが求められた。昭和61年答申により、栄養教諭の職務が明確化したことで、給食を管理する能力が求められ、平成14年答申では、学校栄養職員の職務は健康教育であることが示された。当時、国の健康栄養政策では、栄養士・管理栄養士に求められる役割が多様化した中、学校栄養職員のニーズも、学校給食管理から、健康栄養育を担う専門職へと変貌した。教科との連携、クラブ活動の指導、学校医等と共に健康教育の推進を担う一員として位置付け、教科や担任と連携し、食の専門家として教育活動に参加する教師としての資質が求められて行った。

平成17年に創設された栄養教諭は、栄養士法の趣旨からも管理栄養士が担う職務とするという前提で議論された。管理栄養士が本来の基礎資格と想定されたのは、職務内容に個別指導が加わったからで、栄養教諭の一種免許状は管理栄養士レベルであることが期待された。しかし、管理栄養士課程(大学)の卒業時には、制度上栄養士の免許しか取得できないため、栄養教諭の基礎資格は栄養士と規定されることになった。

(2) 栄養教諭の先進的事例を中心にした職務実態調査によると、教育現場で求められる資質は、学級担任との連携・調整を行い、個別栄養相談指導へつなげていくという、「総合的なマネジメント」の役割であることが明らかになった。

(3) 大学におけるカリキュラム分析では、全国の栄養教諭養成課程を持つ管理栄養士養成大学134校を対象に調査を依頼し、72校の協力を得て進めた。調査資料である各大学のシラバスや履修手引き等を基に分析整理した結果、4大学を先進事例として取り上げ、インタビュー調査もふまえることで、栄養教諭養成カリキュラムの類型化を行った。

大学における栄養教諭養成カリキュラムを分析すると、家政系と栄養系との2系に分かれ、それは文部科学省系の教員養成タイプと厚生労働省系の専門職養成系とに分類できる。

文部科学省系の教員養成タイプでは、家政系が母体である大学の特徴は家庭科、保健、栄養教諭の教員免許の取得が可能であり、専門教育科目の中に学部共通科目を並列した形のカリキュラム構成であり、ここに配置される授業科目が栄養教諭養成の資質形成を左右する教科が存在することを明らかにした。一方、厚生労働省系について説明するならば、それは医療・福祉・看護・栄養系を中心とした管理栄養士を養成する大学が該当し、専門職養成を目指す「栄養士力」強化型のカリキュラム構成と位置付けられる。

カリキュラムを類型化すると、  
① 「教育力」を備えた類型Ⅰ『教職教養科目・家政学的教養重視型』が、お茶の水女子大学、奈良女子大学のカリキュラム構成であり、広い知識と応用力を養う人材育成が中心である。

② 「実践力」を備えた類型Ⅱ『調理健康系知識・技能重視型』は京都女子大学のカリキュラム構成で、食と健康を総合的に捉える人材育成が中心となっている。

③ 「栄養士力」を強化した類型Ⅲ『栄養士養成の知識・技能・実習重視型』は女子栄養大学であり、厚生労働省の指定基準に沿う科目配置が特徴で、スリム化した専門職養成カリキュラムの基本型として位置付けられる。

大学の養成課程で学んで栄養教諭の職に就いた後も、基礎的な知識・技能の上に現場体験を重ね、期待される資質を広げることが必要であるので、栄養教諭養成を担う大学では、その土台となる基礎的資質を育成するためのカリキュラムを開発することが期待される。

以上の追究によって、栄養教諭養成を担う大学において、「教育力」、「実践力」、「栄養士力」を備えたカリキュラムを、より一層自覚的に開発することが必要であることが明らかになった。その場合、栄養教諭の職についた後も、さらなる職能成長につながるような基礎的資質を育成することが大切であることも確認できた。

類型化したカリキュラムを基に、優れた栄養教諭養成を目指すための基礎的資質を強化する養成カリキュラムの基本原則を提案する。

### カリキュラム開発の基本原則の提案

#### 提案 1

① 教養教育科目と専門教育科目に区分し、専門教育科目は、栄養士・管理栄養士の基礎的資質を形成する厚生労働省「管理栄養士学校指定規則指定基準」に基づくカリキュラム構成とする。  
\*単位数の上限設定を設け学生にとって負担の少ない単位配分とし、専門職を意識したカリキュラム構成を主軸とする。

② 専門教育科目の基礎分野と専門分野に、栄養教諭の資質形成の基礎となる科目（臨床医学、食糧経済学、栄養評価、栄養機能論、生涯発達心理学、栄養薬理学）を配置する。そして学校給食において、フードマネジメントを強化するため給食経営管理の授業内容にフードマネジメントに関する項目を加える。

③ 選択科目に学科固有科目を設け、選択必修科目とする。  
管理栄養士養成課程では履修単位の上限を設定していない大学が多いことから学科固有科目を設けることは可能である。カリキュラム調査の結果、管理栄養士を養成する大学ではフードコーディネーター等の資格取得を目指す大学が多く、これに関する科目を学科固有科目に加えることで資質の幅が広がる。

#### 提案 2

③ 類型別による資質形成モデルカリキュラムを提案する。  
\*栄養教諭専門科目と、学科固有の選択必修科目を3年次まで取り終えることで選択必修科目も無理なく履修できる。

④ 1年次には、教養科目の中に食農体験を加えることでこれを栄養教諭の選択必修科目に位置づけ、体験学習を組み込むことで教員としての資質形成につなげる。

#### 提案 3

⑤ 栄養教育実習は1週間しか実施されていない問題がある。これを2週間にすることで実習力を強化することを提案する。  
管轄の異なる実習を同時に行う2週間の連続した実習体制を構築し、これに伴う実習計画試案を検討する。

#### 提案 4

⑥ 提案3について2週間の栄養教育実習計画試案を提示する。

### 提案Ⅰ 栄養士としての資質と教師としての資質形成を目指す全体概要

#### 教養教育科目について

教養教育科目：科目区分（人文科学、社会科学（日本国憲法、外国語）、健康とスポーツ（スポーツ実技）情報処理科目

##### (1) 教養教育科目について

養成大学が設定した科目で養成の独自性を出すことが望まれる。そのため、特色ある科目として組み込むことが必要である。特色ある科目の例として、栄養教諭養成が主体であれば豊かなコミュニケーションを養う、社会や自然との関係を深く人間を理解するための幅広い教養科目を身に付ける科目を設定することが必要である。

「人間関係とコミュニケーション」などを組み入れる。  
栄養教諭はボランティア活動を行うことも必要であることから、「ボランティア・市民活動論」などの教科を組み入れることが必要である。  
学部構成によっては、保健・医療を中心とする総合的な教育課程を目指し、連携実践が可能な科目を組み入れることが必要である。  
例とし、健康づくりに必要な科目を学科の関連性から組み入れた「生命科学」などを組み入れる。

文部科学省では地域と密接に関連した科目を導入し、教養科目の特色を出すよう指導していることから、養成大学の地域性をふまえた特色を打ち出す科目を検討することが必要である。  
山形県を例にあげると、「山形学」を科目名に地域の食と農に関連する講義が検討されており、食農体験も含めて、栄養教諭養成の特色を出す教科を導入することが期待される。

なお、教養教育科目ゴシック下線科目は、文部科学省が定める科目である。

#### 専門教育科目について

##### 栄養・管理栄養士の基礎的資質を形成する科目

専門基礎分野	社会・環境と健康	栄養にかかわる教育に関する科目
	食生活論、公衆衛生学ⅠⅡ、公衆衛生学実習、疫学・社会調査法、食糧経済学	学校栄養教育論Ⅰ（食文化論含） 学校栄養教育論Ⅱ（実践と模擬授業含） 栄養教育実習事前・事後指導
管理栄養士の基礎力を養う	人体の構造と機能及の疾病の成り立ち	教諭に関する科目
	解剖生理学ⅠⅡ、解剖生理学実習、微生物学、病理学、臨床医学概論、生化学ⅠⅡ、生化学実習	教職論、教育原理、教育心理学、教育課程論、道徳教育研究、特別活動研究、教育方法論、生徒指導論、教育相談、カウンセリング、栄養教育実習指導、栄養教育実習、教職実践演習（栄養教諭）
専	食べ物と健康	学科固有科目に栄養教諭の特徴的資質形成に必要な科目を選択科目として加える。
	食品学ⅠⅡ、食品学実験ⅠⅡ、調理学実習、応用調理学実習、調理学実験、食品衛生学、食品衛生学実験	
門	＜栄養の基礎的資質＞ 基礎栄養学 栄養学概論、栄養学実習	
	応用栄養学 ライフステージ別栄養学、ライフステージ別栄養学実習、スポーツ栄養学、栄養評価論、栄養機能論	
分	＜栄養教育の基礎的資質＞ 栄養教育論 栄養教育論、栄養・健康教育実践論、生涯発達心理学、栄養カウンセリング論、栄養教育論実習	
	＜栄養の実践的資質＞ 臨床栄養学 臨床栄養学、臨床栄養管理学、栄養薬理学、チーム医療論、臨床栄養学実習、臨床管理学実習、	
野	公衆栄養学 公衆栄養学ⅠⅡ、公衆栄養学実習、地域栄養計画論、地域栄養計画論実習	
	給食経営管理論 給食経営管理論ⅠⅡ（フードマネジメント含）、給食経営管理論実習	
野	＜管理栄養士の総合的資質＞ 総合演習 臨地実習事前・事後指導、管理栄養士総合演習	
	＜臨床現場での基質＞ 臨地実習 臨床栄養学臨地実習、給食経営管理論臨地実習、公衆栄養学臨地実習	
	卒業研究 卒業論文、卒業演習	

提案2  
特徴的資質形成につながる履修モデル

類型Ⅰ：教職教養科目・家庭科的教養重視を特徴とする養成型

栄養教諭科目 (教職に関する科目の列記は略)	管理栄養士科目 (資質形成の基礎となる科目)	学科固有選択科目	教養科目
学校栄養教育論Ⅰ (栄養教諭の職務の理解) 学校栄養教育論Ⅱ (実践模擬授業含)	食糧経済学、臨床医学概論、栄養評価論、栄養機能論、生涯発達心理学、栄養薬理学、給食経営管理学習(フードマネジメント含)	児童学概論、学人関係論、食物学概論、生活健康概論	大学の独自性を生かした科目を配置

類型Ⅱ：調理健康系知識・技能重視を特徴とする養成型

栄養教諭科目 (教職に関する科目の列記は略)	管理栄養士科目 (資質形成の基礎となる科目)	学科固有選択科目	教養科目
学校栄養教育論Ⅰ (栄養教諭の職務の理解) 学校栄養教育論Ⅱ (実践模擬授業含)	食糧経済学、臨床医学概論、栄養評価論、栄養機能論、生涯発達心理学、栄養薬理学、給食経営管理学習(フードマネジメント含)	食空間プロデュース論、食品開発演習、フードコーディネート論	大学の独自性を生かした特徴ある科目を配置

類型Ⅲ：栄養士養成の知識・技能・実習重視を特徴とする養成型

栄養教諭科目 (教職に関する科目の列記は略)	管理栄養士科目 (特徴的な科目)	学科固有選択科目	教養科目
学校栄養教育論Ⅰ (栄養教諭の職務の理解) 学校栄養教育論Ⅱ (実践模擬授業含)	食糧経済学、臨床医学概論、栄養評価論、栄養機能論、生涯発達心理学、栄養薬理学、給食経営管理学習(フードマネジメント含)	食品・メニュー開発演習、食農体験	大学の独自性を生かした特徴ある科目を配置

類型Ⅲでみると、提案1の内容を基本として、基礎専門分野と専門分野の下線の科目を履修し、さらに食品・メニュー開発演習、食農体験を選択することで栄養士養成の基礎知識・技能・実習重視の特徴を持つ栄養教諭養成が可能となる。

提案3  
栄養教諭の実習体制充実の改善案

文部科学省管轄の実習と厚生労働省管轄の実習を併せた2週間の栄養教育実習に関する実施計画案

前半1週目

「学校給食・給食時間の指導」を中心とした実習内容

	午前	給食の時間	午後
月	初日 ①職員朝会：学生挨拶 ②実習スケジュールの確認 ③調理作業の見学と実習 調理作業、衛生管理を担当	所属学級への挨拶 給食指導見学 児童と一緒に給食会食	厨房作業 食器などの洗浄・消毒作業実習 翌日の調理作業の打ち合わせ 帳簿類の記入 実習の反省
火	2日目 全校朝会 児童への紹介 実習前の調理作業の打ち合わせ 調理作業実習	所属学級での給食指導の実施 児童と一緒に給食会食	厨房作業 食器などの洗浄・消毒作業実習 翌日の調理作業の打ち合わせ 帳簿類の記入 実習の反省
水	3日目 物資の検収 実習前の調理作業の打ち合わせ 調理作業実習	所属学級での給食指導の実施 児童と一緒に給食会食	厨房作業 食器などの洗浄・消毒作業実習 翌日の調理作業の打ち合わせ 帳簿類の記入 実習の反省
木	4日目 物資の検収 調理作業打ち合わせ 調理作業実習	所属学級での給食指導の実施 児童と一緒に給食会食	食器などの洗浄・消毒作業実習 学生自作献立(米飯給食)の調理作業打ち合わせ 簿類の記入 実習の反省
金	実習最終日 物資の検収：打ち合わせ前に学生だけで実施する調理作業打ち合わせ 学生立案献立(米飯給食)による調理作業実習、現場の作業導線の確認(効率化を図るための作業をする)	学生実施献立の紹介と栄養指導 学校給食に関する教材としてビデオ教材を用意して10分間の学生献立の栄養指導を実施する。 (全校へ向けてテレビ放送) 所属学級での栄養指導 児童と一緒に給食会食 残食調査	帳簿類の記入 実習の反省 学生立案献立の反省会 (調理師との反省会)

後半1週目

「食に関する指導」を中心とした栄養教育実習内容

(実習生3名を想定)

日程	月	火	水	木	金
行事	全校朝会				全校朝会
朝	全校朝会(体育館)	受け持ちクラスのスキルタイム	受け持ちクラスのスキルタイム	受け持ちクラスを行う内容例：朝読書	全校朝会
1校時	校長講話 小学校教員と学校運営全般	授業参観 所属学級	授業参観 所属学級	授業参観 所属学級	査定授業
2校時	教頭講話 生徒児童について	授業参観 所属学級	模擬授業	授業参観 所属学級	査定授業(参観)
3校時	養護教諭講話 栄養相談とカウンセリング	師範授業の見学 6年生	模擬授業(参観)	授業参観 所属学級	査定授業(参観)
4校時	授業参観 所属学級	師範授業の見学 6年生	模擬授業(参観)	授業参観 所属学級	実習生研究授業の反省
5校時	授業参観 所属学級	授業参観 所属学級	栄養教諭・実習生同士の授業振り返り	教材研究	事後指導研究会
6校時	教材研究	給食主任講話 学級指導 学級経営	自己の授業の反省	教材研究	実習終了と挨拶 反省会 学生主導型を実施

栄養教育実習は1週間であるが、これを2週間(給食管理実習1週間+栄養教育実習1週間=2週間)の教育実習とする。栄養士免許取得のための学外実習は厚生労働省の管轄であり、教育実習は文部科学省の管轄であるが、この管轄の異なる実習を同時期に、併せて2週間の連携した実習体制を構築する。以下に、提案4の栄養教育実習の実習計画案として大学側から実習学校へ栄養教育実習内容を示す計画案。

提案4

(1) 栄養教諭教育実習計画案

1. 実習の種類と期間  
栄養教育実習：2週間(給食管理実習1週間、栄養教育実習1週間)とする。
2. 教育実習の内容と指導方法及び運営  
実習協力校で栄養教育実習指導委員会を設ける。小学校はこれまで教育実習の受け入れがあることから、すでに教育実習運営に関する組織化がなされていることを前提にその形態に進んで実施する。

＜栄養教育に関する教育委員会構成＞

学校長、教頭、教務、または教育実習指導教諭、給食主任、学級担任、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員(ただし委員構成は学校裁量)

栄養教諭がない場合には、養護教諭が児童生徒指導、栄養相談などの個別指導の方法やカウンセリングに関する基礎的な知識(理論および方法)の指導をする。

学校教育全般について担当教員より下記の指導を実施する。

教育指導内容	指導担当教員
1. 学校運営の概要	学校長
2. 教員の服装	教頭
3. 栄養教育実施計画・全体指導	教務または教育実習指導教諭、給食主任、栄養教諭
4. 学習指導、指導案作成、教材研究、教具の活用等に関する指導	教育実習指導教諭、栄養教諭、学校栄養職員
5. 児童・生徒指導、学級指導	学級担任、教育実習指導教諭、栄養教諭
6. 栄養相談・カウンセリング指導	栄養教諭、養護教諭
7. 実習生の成績評価	教育実習指導教諭、給食主任、栄養教諭、教育実習指導委員会メンバー全員

3. 教育実習期間の指導内容

(1) 実習の事前指導  
教育実習指導委員会の指導計画に基づき、教育実習指導教諭または栄養教諭から実習内容の説明、校舎案内、指導の概要について事前指導を行う。

(2) 教育実習指導教諭  
学習指導面については教育実習指導教諭、栄養教諭、学校栄養職員が行い、児童の生活指導、HRは学級担任が指導を行う。

(3) 栄養教育実習の内容  
実習生は食に関する指導について、指導案を作成し、実習授業を行う。指導教諭の示範授業による指導などは十分な準備の上で実習にあたる。

① 実習授業は1週間で2時間とする。  
正式指導案は2時間分とし、そのうち査定授業は1時間設定する。  
査定授業1時間の指導案については、細案を作成し、遅くとも当日朝までに教員全員に配布する。

② 授業実施後は参観した教諭に指導を受ける。  
指導を受ける時間は当該教諭の指示による。

③ 学級の場での実習  
TTによる授業では、学級担任または栄養教諭を通して担任の補助的役割を受け持たせる。その際、児童の生活指導について実習させる。必要と思われる学級に関する諸資料を実習生に提示し、指導のあり方、学級の方針、学級の状況などについて説明指導をする。

④ 研究授業の日時は、教育実習指導教諭または栄養教諭の指示に従う。

⑤ 実習生の実習記録(日誌)は、教育実習指導担当教諭または栄養教諭が点検指導する。

⑥ 1日の健康観察や給食時間の指導、清掃などの指導・助言の時間を設ける。

⑦ 実習生の評価  
生徒指導、HRは学級担任が、学習指導は教育実習指導教諭、栄養教諭が評価し、教務主任、給食主任がこれを受けて総合的に評価する。これをさらに栄養教育実習指導員会で調整し決定する。

(2) 栄養教育実習の日程に関する試案

事前打ち合わせは、実習開始の2週間前までに実施

- オリエンテーション  
 学校長、教育実習指導教諭、栄養教諭から説明打ち合わせ
- 親任式（全校児童への挨拶）  
 実習1週間目の朝に行う  
 教職員には出勤第1日の朝に行う
- 示範授業参観の実施

	1教時	2教時	3教時	4教時	5教時	6教時
1日目	校長 講和	教頭 講和	実習 指導 教諭、 教務 主任	講和の まとめ	実習ノ ート、教 材研究 校舎見 学	
2日目	←授業参観・示範授業等日程の指示に従う→					
3日目	教材研究・指導案の作成等 ←学級指導・授業参観・示範授業等→					
4日目	教材研究・指導案の作成等 ←学級指導・授業参観・示範授業等→					
5日目	査定授業の実施 日程は実習指導教諭の指示に従う					

- 実習協力校の栄養教諭教育実習指導委員会は「教育実習の心得」を作成する。  
 次の内容を網羅した教育実習の心得を作成すること。  
 勤務について、教育実習に関する諸注意、  
 実習生の授業中の態度、授業における工夫や注意事項、指導を受けるにあたって、実施の授業について、児童への接し方等

今後の課題と展望

本研究は、優れた栄養教諭を養成するにはどうしたらよいかということが根底にあり、学校栄養職員の歴史から栄養教諭を目指した経緯、審議経過、実態調査を踏まえてカリキュラムの分析、課題までを見てきた。実態調査からは教育現場で求められている役割と審議経過や答申から示された栄養教諭の役割には格差が生じていることがわかった。栄養教諭はクラス担任との連携により授業づくりをしているが、与えられている授業時間数は明確に示されていない。その原因は食育が学校全体の取り組みとして位置づけられており、食に関する授業内容については学習指導要領の具体的な指導項目の記載が示されていないため、栄養教諭やクラス担任の発想や思考によって食育の授業が作られていた。そのため、統一した教材がなく、唯一学校給食が「生きた教材」ではあるが、実際の効果に関するデータは見当たらない。しかし、多くの栄養教諭たちは教育現場において必要不可欠な教員の一人として位置づけられており、マネジメント能力が強く求められていた。これらの状況をふまえて、栄養教諭が行う授業は、食に関する指導という位置付けではなく、「食育」という教科を設定した中で授業が行われることを検討し、その具体的な内容を学習指導要領の指導項目に示すことで、栄養教諭自身にとってもより積極的に手腕を発揮することが可能となる。このことにより、栄養教諭養成に求められる資質形成も明確化し、養成段階では何をどのように教育するか具体策が見えてくる。栄養教諭養成は、これまで基本となるものが示されていない中で、教員養成が試行錯誤の下に展開してきたというのが実情である。学校教育を取り巻く環境が複雑多義にわたり変化する中で、栄養教諭が解決しなければならない問題もまた複雑化することが想定される。養成課程（大学）において、学校教育目標の達成と

健康教育を推進して行く栄養教諭を育成するには、「栄養士力」、「教育力」そして「実践力」を兼ね備えた「総合的な能力」の育成がさらなる課題となるのではないだろうか。カリキュラム開発のための基本原則の提案が、これからの養成課程の新たな視座となることを希望する。

本研究では、栄養教諭養成の資質形成に主眼を置いた分析を行った。答申や審議経過ではコーディネーターの資質が栄養教諭に求められたが、実態調査からは総合的なマネジメントの役割が求められたことを明らかにすることができた。しかし、現状、大学における栄養教諭養成カリキュラムの中では、マネジメント力、連携調整力を育成する教育は行われていない。この能力を育成するには教員の研修体制等、各県の実態調査を踏まえる必要があるが、今後、改めて追究したいと考える。

まずは、栄養教育実習体制を整えることで教育実習の強化につながるであろう。連続した実習を体験することで、学校組織と栄養教諭の役割がより明確となり、2週間の体験実習を通して栄養教諭の職務を深く学ぶことが可能となる。この実習体制は、実習小学校で2週間の受け入れが認められることで可能になる。このように実習内容を改善することで、栄養教諭の「実践力」と「教育力」をより強化し、充実した実習に生まれ変わることができる。実習の最大の欠点を克服することが栄養教諭養成には急務である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- 川越有見子  
 栄養教諭養成カリキュラムの類型的考察  
 東北教育学会研究紀要、査読有、第15号、  
 2012、pp. 1-13
- 川越有見子  
 小学校における栄養教育を効果的にする  
 教材開発、食生活研究、査読有、Vol. 32、  
 2011、pp. 22-37
- 川越有見子  
 栄養教諭養成大学における食育実践プロ  
 グラムの検討～小学校・家庭・地域と連携  
 した肥満改善の取り組み～  
 食生活研究、査読有、Vol. 31、2011、  
 pp. 21-34
- 川越有見子  
 創設過程にみる栄養教諭制度の法的位置  
 づけと課題、山形県立米沢女子短期大学附  
 属生活文化研究所報告、査読無、第37号、  
 2010、pp. 69-80

[学会発表] (計1件)

① 川越有見子  
栄養教諭養成カリキュラムの類型的考察  
日本カリキュラム学会  
2011年7月16日、北海道大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川越 有見子 (YUMIKO KAWAGOSHI)  
西南女学院大学・保健福祉学部・准教授  
研究者番号：20425341

(3) 連携研究者

水原 克敏 (MIZUHARA KATUTOSI)  
早稲田大学・教育総合科学学術院・教育学  
研究科 教授  
研究者番号：00124628  
関根 明伸 (SEKINE AKINOBU)  
国土館大学・体育学部・准教授  
研究者番号：10364449